



立命館大相撲部

山中 未久さん(22)



女子も国技 スピード磨く

男子にもひるまない。頭からぶつかり、まわしをつかむと、一気に攻め立てる。京都市にある立命館大学相撲部の稽古場。166センチ、64キロの体を砂だらけにししながら、激しい稽古に励む。

「初土俵」は4歳。保育園の大会で優勝し、小さな体で大きな相手に勝つ快感を味わった。小学4年から相撲クラブで本格的に取り組み、中高と続けた。当初は「なんで女が相撲なの」と偏見の目に苦しんだことも。でも結果で見返した。高校で日本一になると、

静岡県焼津市出身。3月に立命館大を卒業し、同大職員に。相撲部ではコーチ兼選手。7月に開かれたアマチュア相撲の世界選手権女子軽量級で2位。

周囲も応援してくれるようになった。

立命館大に入学した4年前、女子部員はゼロだった。それが、今では自身に憧れて入部した4人の後輩がいる。「相撲を続ける女子が増えてきたのが何よりうれしい。自分も負けないようにと切磋琢磨できる」。大学を卒業した春以降はコーチとして指導も行う。

昨年の全日本女子相撲選手権で優勝するなど国内では誰もが認める第一人者。ただ7月の世界選手権では決勝で敗れ、初優勝を逃した。「女子相撲も日本の国技。でも、まだまだ認知度が低い。だから結果を残し、アピールしないと」。外国人のパワーに対抗すべく、スピードに磨きをかける。

願いは、女子相撲が五輪競技になること。その舞台に立つ自身の姿を夢見て、精進の日々が続く。

文・岩佐友 写真・楠本涼

記者から

スピードある取り口は横綱日馬富士そっくり。若さと情熱で女子相撲界を引っ張ってほしい。